

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 大型農業生産法人及びTMRセンターの設立・運営による生乳増産への取組みと金融支援
 JA名 JA東宗谷（北海道）

1 動機 (経緯)	当地域も後継者不足や離農などにより酪農家戸数が減少傾向にありますが、当JAは行政等関係機関と連携した中、地域の酪農振興を目指し、出荷乳量を維持・増産するため、大型農業生産法人（経産牛 300～600 頭規模）及びTMRセンターの設立・運営への各種取組み・金融支援を積極的に行っており、出荷乳量の増産などに実績を上げています。
2 概要	(1) 大型農業生産法人の設立支援 地域における酪農産業の確立を目指すため、核となる農業生産法人の設立・育成が必要であると考え、平成15～20年にかけて、5戸の大型農業生産法人を設立してきました。JAは設立の相談受付や運営支援を行います。 (2) TMRセンターの設立支援 協業化のメリットを活かし組合員の規模拡大を支援するため、構成員自らが主体となる5つのTMRセンターの設立支援を行ってきました。 (3) 運営支援の取組み ①規模拡大を支援するJA独自の貸出資金の創設 ・H17年 規模拡大経営資金（規模拡大等に伴う運転資金） ・H20年 農業雇用者宿泊施設資金（雇用者の宿泊施設の建設資金） ②財務基盤強化策としてアグリシードファンドを導入 ・創業赤字及び突発的な事故・疾病による被害額へのファンド活用 ③地域の酪農振興会との連携による酪農研修生や実習生への支援、新規就農者への支援 ④経営管理や金融対策として、JA・公庫・信連三者による実績点検実施
3 成果 (効果)	(1) 出荷乳量の増加 当JA管内における酪農家戸数が減少している中、出荷乳量は平成24年2月末の目標乳量 75,632 t に対して、実績は 76,900 t で計画比+1,268t となりました。 (2) 大型農業生産法人及びTMRセンター設立の効果 TMRセンターの設立により草地管理や飼料収穫・調製が集約され、個々の酪農家の規模拡大が可能となり乳量の増加に繋がりました。また、労働が集約・分業化され、休暇の取得が可能となったことや非農業者の雇用を新たに創出するなど、地域雇用の安定化を図ることができました。
4 今後の予定 (課題)	課題としては、創業赤字の農業生産法人やTMRセンターの経営改善、乳飼比の改善があげられます。対応策としては、各農家の規模拡大及び新規就農者の受入を行うことで、TMRセンターのTMR販売数量及び売上高増加につながり、これにより、TMRの単価引下げも可能となり、各構成員農家の乳飼比削減及び経営改善も期待できます。